

観光ツアー選択予測に関する研究

九州大学工学部 ○学生員 中島 雅

九州大学工学部 正 員 大枝 良直

九州大学工学部 正 員 角 知憲

1. はじめに

これからの高齢化社会は、現在15歳以上の人口の約80%が余暇を旅行、行楽に費やしているという報告¹⁾から、旅行人口はますます増えていくことが予想される。それに伴い、各観光地への需要予測、またどの地域に集客能力があるかを把握していくことが必要となってきた。従来の選択行動や需要の予測の方法としては、集計分析と非集計分析があるが、非集計分析では個人レベルでのデータを利用することが可能である。また、データ数も集計モデルに比べて少なくすむという利点がある。そこで本研究では、国内の観光ツアーの選択行動に非集計モデルを用いて、様々な要因が個人の観光ツアー選択行動に対してどう影響を及ぼし、選択肢の中からの様な観光ツアーを選ぶ傾向があるかを分析する。

2. 観光ツアー選択行動のモデル

意志決定に及ぼす要因としては、まだ様々な要因があると考えられる。たとえば、目的地の魅力度は意志決定に重要な関係があり、またその目的地へどのような移動手段を利用して行き、旅行先で何をするかということがある。早く目的地に着きたい人は飛行機を利用するであろうし、そうでない人はJRやバスを利用すると考えられる。また、学生と社会人の選択決定について考えてみると、この両者には、余暇の日数、収入に差があるため、選択に違いがでてくるだろう。

以上のことを考慮して、本研究では個人の観光ツアー選択の意志決定行動の動機となる

要因として、費用、旅行日数、性別、年齢、目的地、移動手段、旅行内容、職業の8項目を考えた上で非集計モデルを用いる。

3. 非集計ロジットモデルの適用

(1) 各観光ツアーの設定

各観光ツアーは、旅行代理店が10月から12月にかけて企画しているもので、内訳は表1のようにした。

表1. 目的地一覧表

地域	個数	内容
北海道	2	観光
東北	1	温泉
東京	2	観光、ディズニーランド
名古屋	1	観光
関西	3	観光
九州	2	温泉、観光
合計	11	

備考：北海道、東京、関西、九州の個数が複数になっているが、いずれも内容、目的地は異なるものである。

(2) アンケート調査

平成8年11月に大学生10人、社会人10人、60歳以上の高齢者13人を対象に、秋から冬にかけてどの観光ツアーを選択するかというアンケート調査を実施した。

アンケートの内容は、11個の観光ツアーの中からランダムに2個を選んでもらい、秋から冬にかけて旅行に行くならどちらに魅力

を感じるかということ調査するものである。
1人につき以上の内容を10回繰り返す。

なお、アンケート総数は330である。

(3) 地域別集計結果

11個の観光ツアーを地域別に6つに分け、学生、社会人、高齢者別に集計し、地域別、費用別、内容別に割合を出したものをそれぞれ図1、図2、図3に示す。(図3に示した観光1は自由行動なし、観光2は自由行動ありである)例えば地域別の集計結果を見て、北海道の割合を比べてみると、高齢者の割合が少ないが、これは北海道に秋から冬にかけて旅行するのは寒いからという理由で北海道を選ばない人が多かったからであり、このことから、観光ツアーを選ぶ際の選択要因となるものは目的地だけではなく、他にいくつかの要因があると考えられる。それらの要因などを考慮して、非集計モデルを用いて計算した結果は当日発表する。

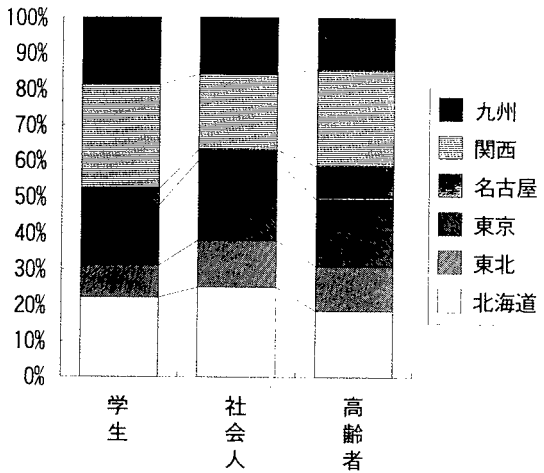


図1. 地域別集計結果

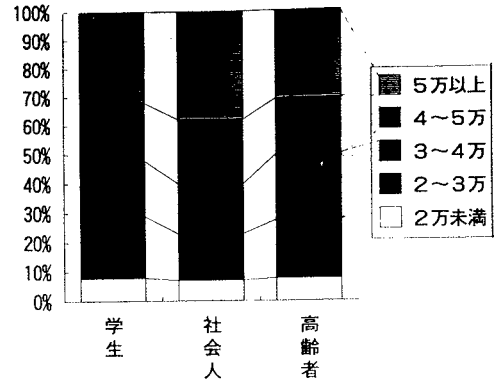


図2. 費用別集計結果

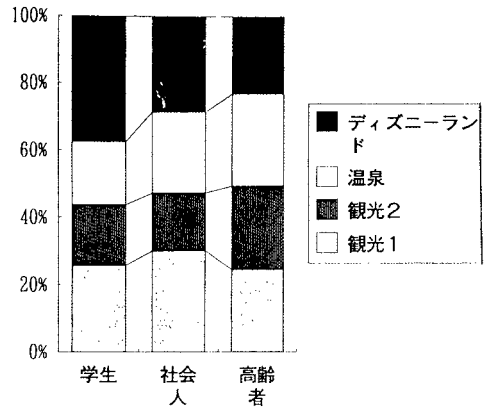


図3. 内容別集計結果

4. 本研究の今後の課題

(1) 福岡県に住んでいる人を対象にしているため、他県の人に対しても同じ考え方ができるかという地域性の問題がある。

(2) データは30人程度からアンケートを取っているので、100万人以上いる福岡市全体の観光ツアー選択行動を述べる事が出来ているのか検証する必要がある。

参考文献

- 1) 平成3年社会生活基本調査報告第8巻
地域—生活行動編(その1)
総務庁統計局
- 2) やさしい非集計分析
交通工学研究会